

## 第42回 IP部会+第2回 CIPO部会 合同部会

### テーマ『中小企業の成功事例にみる～会社を元気にする知的財産の使い方～』

日時 2013年9月6日(金) 13:30~16:30

場所 アクトシティ浜松 研修交流センター 51研修交流室

講師・アドバイザー 弁理士 土生 哲也氏

#### 3部構成の研修会!

特許庁や各地経済産業局で中小企業向け知的財産戦略関連事業の委員を歴任され、特許庁主催セミナーや中小企業支援者向け研修等の講師を多数努められている土生哲也氏をお迎えし、3部構成の研修会を行った。

1部 中小企業へのヒヤリング結果等に基づく知財活用事例の紹介

2部 参加者によるディスカッション

3部 中華料理とお酒をいただきながらの懇親会

#### 第1部「中小企業の知財活用事例」

①他との違いを“見える化”する。

- ・自社にある技術を知らなければ提案型企業にはなれない
- ・特許マップを社員へ

②工夫の成果を企業の“財産”にする。

- ・社員の経験や知識を広く「知的財産」と捉え
- ・現場の工夫の成果を作業マニュアルにまとめる

③創意工夫の促進で社内を“活性化”する。

- ・情報を共有化
- ・労働集約型から知識集約型ビジネスへ

④ライバル企業の動きをコントロールする。

- ・特許は投資回収のための手段
- ・市場の拡大を重視して競合にもライセンス

⑤取引先との交渉力を強化する。

- ・顧客が特許を持つのではなく、自社が持つ

⑥顧客にオリジナリティを伝える。

- ・自社のこだわりを特許で表現、知財報告書、プレスリリースでPR

⑦パートナーとの関係をつなぐ。

- ・製品内製から顧客と技術を共同利用
- ・特許出願した技術を顧客に提案、顧客と共同生産

⑧顧客の安心を保障する。

- ・顧客への警告のリスクを回避するために特許出願

## 第2, 3部について

### ①参加者によるディスカッション

- ・ 経営者と知財担当との連携の難しさ
- ・ 知財担当から経営者への定期的な報告も
- ・ 問題が起こらないとその重要性が分からない
- ・ 経営者の研究会等でこのようなセミナーを開催したらどうか
- ・ 機会ある毎に経営層に知財情報を提供する

### ②懇親会

講師と参加者同士が、あちらこちらで本音の議論が交わされ、真の交流ができ、たいへん有意義な場であったと思う。

### 参加者の感想等

土生先生の事例を交えてのお話しは、大変分かりやすく、企業の知財活動の本質的なことであり、参加者にとって、いろいろな情報が得られ、大変有益であり、企業の知財活動の目的、戦略等をあらためて考える機会になったと思われる。

参加者から、以下のような感想があった。

- ・ 従来の知財セミナーには無い、経営と人の意欲につながる事例を多く紹介していただき、大変参考になった。自社の社長&経営陣にぜひ紹介、説明したい。
- ・ 「知的財産を考える順序」が参考になった。
- ・ 知財への考え方が勉強になった。
- ・ 大変有意義でした。次の機会もまたあれば参加したい。
- ・ 中小企業の実例が多くて参考になった。
- ・ 経営の方に提案できたらしてみたいと思います。

～CIPO 部会幹事～